AIとプロの通訳、どちらを選ぶ？
あらゆる視点で徹底比較！

- コエフォント通訳の実力を検証 -

Summary

AI通訳とプロ通訳、最適な使い分けについてを比較しました。
日常づかいでは、AI通訳のコストパフォーマンスが高い結果に。

		コエフォント通訳	プロ通訳
導入コストの比較	利用金額 （1時間あたりの金額）	¥5,000 / 月	¥10,000～ / 1時間
	キャパシティ＆ アベイラビリティ	アプリをインストールすれば、 いつでもすぐに利用可能	スケジュール調整に時間がかかる。 30分以上の会議は、2名の通訳が必要で、 利用可能な時間帯が限られる
	事前準備	不要	事前の資料等の共有が必要
パフォーマンスと品質の比較	リアルタイム性 （通訳開始時間）	2秒	2秒
	平均通訳精度	80%~95% ※使い込むほど成長	70%
	パフォーマンスの安定性	常に80%以上の 精度を達成	担当者により 翻訳精度が異なる
	パフォーマンスの継続性	MTGを通じて パフォーマンスを維持する	10分間の交代で パフォーマンスを維持
	ドメイン特有の単語への適応	事前学習なしで、自動的に適応	1～2回のMTGが必要

2.コスト・投資対効果 (ROI)

事業活動は常にコスト削減と投資対効果が重視されます。
コスト・投資対効果の観点から、比較を行いました。

	コエフォント通訳	プロ通訳
利用金額 （1時間あたりの金額）	**¥5,000 / 1ヵ月** 1ヵ月間、何時間利用しても ユーザーは、同一料金で利用可能	**¥10,000～ / 1時間** 1時間の同時通訳では、交代要員として2名の通訳を発注する必要あり
導入時間 （運用開始までの平均時間）	**平均5分** アプリをインストールして、 立ち上げたら即利用可能	**平均5営業日** 通訳手配会社への発注から、候補者選定、事前打ち合わせ等が必要
スケールメリット （利用頻度あたりのROI）	**高** エンタープライズ向けに、 50,000円で10ユーザーまで利用可能	**低** 会議体ごとに、発注、 事前打ち合わせ等が必要

3. スピード・リアルタイム性

ビジネスのスピード感を損なわずに、即座に多言語対応できることが重要な指標です。反応の観点からの比較しました。

	コエフォント通訳	プロ通訳
リアルタイム性 （通訳開始までの時間）	平均**2秒以内** 話終わりから、平均2秒以内に、必ず通訳を開始。	平均**2秒以内** 平均2秒以内に、通訳が開始。文脈や間を読む力は、人間ならでは。
遅延の最小化 （長文通訳のスムーズさ）	平均**2秒** 長い会話でも、平均2秒以内に、通訳を開始。	平均**5秒** 長い会話の場合、通訳者の頭の整理を行なってから通訳を開始。

4. 精度・品質

事業活動、特にエンタープライズでは、正確な翻訳が求められます。
正確性・品質の観点から比較しました。

	コエフォント通訳	プロ通訳
専門用語・業界用語への適応力 （専門領域への対応力）	○ **事前学習なしで、自動的に適応**	△ 専門性を持つ通訳のアサイン次第。 場合によっては、難しいケースも。
文脈理解・意図の正確な伝達 （伝えたい内容の伝達率）	**100%** 自分の言葉をそのまま通訳するため 意図が100%伝わる	**70%** 通訳者は70%の言葉に略して伝えたり 意訳によって伝わらないことも
品質の均一性 （パフォーマンスの発揮率）	◎ AIのため、24時間365日、 いつでも均一のパフォーマンス	△ 担当者のレベルや体調・疲労等で、 パフォーマンスが低下の可能性も

5. 可用性・スケーラビリティ

グローバル企業では、さまざまな拠点・シチュエーションへの対応が求められます。可用性とスケーラビリティを比較しました。

	コエフォント通訳	プロ通訳
多拠点/多国籍の対応力 （さまざまな言語への対応）	× 現在は英語のみの対応 今後は順次、対応言語を拡大	△ さまざまな言語に対応できる通訳者に発注できれば対応が可能
24/7 対応 （臨機応変さ）	◎ Wi-Fiが繋がる場所であれば、 24時間365日いつでも対応可能	× 発注作業が発生するため、 臨機応変な対応は難しい
継続学習 & 最適化 （過去の通訳経験から、翻訳精度を向上できるか）	◎ 継続学習の結果、専門用語や業界用語が理解・発話が可能	○ 同じ担当者に発注すれば、 企業の慣習への対応が可能